

## 最高の仲間と出会い

富士見台中学校 小野 良

不安とワクワクの出発の当日、市の代表、学校代表という言葉が頭の中をよぎった。それまでの過程があっての出発となった。5回にわたる研修会、最初はすごく不安だったが、一緒にやっていくうちに安心と勇気がでてきた。私は全然英語が喋れないし、とても苦手だ。だからこの機をきっかけに少しでもできるようになりたいと思い、立候補してみた。そしたら、行けることになり、当日まで少しづつやることをやって出発することができた。

1泊目、2泊目はデンバー市のホテルに泊まった。飛行機で時差ボケして、朝まで眠ることができなかった。次の日、派遣団全員で水族館へ行って、その後16番通りを自由行動でまわった。そのときにピアノを弾いていたおじいさんに出会った。彼はホームレスっぽくて、服もボロボロでタバコを吸いながら、ピアノを私たちに向けて弾いてくれた。そのときの悲しい音色と顔がとても心に残っており自分で悲しくなった。アメリカにも、そういう人たちがたくさんいるということに気づかせられたのだ。そのとき、派遣事業は当たり前のように来られているけれど、周りの人が私たちを支えてくれたから来られたわけで、とても感謝でいっぱいの気持ちになった。そして、16番通りでもう一つ驚いたことがある。それはバスの乗り降りのお金がかからないということだ。日本ではあり得ないことなので、とても驚きながら使っていた。そうこうしているうちに2日目が終わり、ホームステイ当日を迎えた。デンバーから離れコロラド・スプリングス市に向かった。ホストファミリーが看板を上げて、温かく私たちを歓迎してくれた。どのホストファミリーもとても親切で、私は温かい気持ちになった。5日間も一緒に暮らしてみて、コミュニケーションだけではなく、気配りをすごくしてくれて、気楽に過ごすことができた。私は、アメリカは最初すごく怖い国だと思っていました。だけど、優しい人はとても優しいし、子どもたちも自由でいい国だと思いました。そして、ホストファミリーの人たちは全てボランティアで私たちを引き受けてくれていることを知って、その人たちのすばらしさに心を打たれ、好きになりました。私は、コミュニケーション力がなかったので、知っている単語で上手につないで言っていました。そして笑顔で接したら、相手も笑顔で会話をしていました。言葉があまり使えなくとも、笑顔は世界共通なので一つのコミュニケーションの方法として使えることができ、相手の人もいい気持ちで話すことができることを学んだ。そして、9日間を通してとても多くの人に出会うことができました。出会いと、笑顔をこの旅で大切にできたと思います。そして、親や周りの人に感謝して旅行できました。私にとって忘れることなく心の中で何度も思い出すでしょう。ありがとうございました。